

指導と評価の年間計画・評価規準の作成について

9 芸術 書道

<目次>

I	「指導と評価の年間計画・評価規準の作成の手引き」	P 1～3
II	「指導と評価の年間計画」(書道 I) <例>	P 4
III	「評価規準と単元計画」(書道 I) <例>	P 5～6
IV	「学習指導案」(書道 I) <例>	P 7

I 「指導と評価の年間計画」及び「評価規準と単元計画」の作成の手引き

1 「指導と評価の年間計画」について

これは、次の2の「評価規準と単元計画」の全単元について、その概要を記述したものである。生徒の学習活動に対するより適正な評価、及び生徒の学習の改善に生かされる評価（指導と評価の一体化）の実現を目指して作成する。

これまで作られてきた指導計画は、多くの場合、学習内容（指導内容）を単に1年間の授業時間数に対して配分しただけに留まっていたが、この「指導と評価の年間計画」では、各授業ごとの学習活動のポイント、観点別の評価のポイント、評価方法、評価規準も含めて記述する。

2 「評価規準と単元計画」について

学習指導要領に基づく「評価規準と単元計画」は、言い換えれば、評価規準を盛り込んだ「単元ごとの指導と評価の計画」である。次の内容構成で作成する。

○科目全体の「目標」「評価の観点の趣旨」を示す。

- ・科目全体の目標…学習指導要領に示す当該科目の目標
- ・科目全体の評価の観点及びその趣旨
…「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」参照

○内容のまとめりごとの「評価規準」を示す。

- ・内容のまとめりごとの評価規準
…内容のまとめりごとに4観点別に示した評価規準を記す。「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」参照

※「内容のまとめり」とは、ほとんどの教科書の「章」に該当するものであるが、学習指導要領に示された内容に基づいており、使用する教科書等に基づく「章」とは必ずしも一致しない場合がある。

例えば、書道Iにおいては、学習指導要領の内容の「A 表現（1）漢字仮名交じりの書」、「A 表現（2）漢字の書」、「A 表現（3）仮名の書」及び「B 鑑賞」を内容のまとめりとしている。

◎単元ごとの「目標」「評価規準」を示す。

- ・単元ごとの目標…実際の使用教科書等に基づいた授業の進度に沿って単元ごとに示した目標。学習指導要領の項目ごとのねらいをもとに記載する。
- ・単元ごとの評価規準
…単元ごとに4観点別に示した評価規準。「内容のまとめりごとの評価規準」を単元の内容に即して具体化したもの。

※「単元」とは、ほとんどの教科書の「節」に該当するものである。

◎指導と評価の計画に、「目標」「学習活動」「評価規準」及び「評価方法」を示す。

- ・目標、学習活動…上記の「指導と評価の年間計画」及び科目全体の「目標」「評価の観点の趣旨」、内容のまとめりごとの「目標」「評価規準」を反映したものでなければならない。
- ・評価規準…「目標」を具体化したものであり、目標が生徒の学習状況として実現された状況を具体的に想定して示す。
- ・評価方法…評価方法については、各学校で各教科・科目の学習活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や生徒の発達の段階に応じて、観察、生徒との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接などの様々な評価方法の中から、その場面における生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択していく。

単元ごとの指導と評価の計画<例>

□『書道Ⅰ』の目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

□『書道Ⅰ』の評価の観点の趣旨

書への 関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な 書表現の技能	鑑賞の能力
書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効果や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。

□「A 表現（１）漢字仮名交じりの書」の評価規準

書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能
漢字仮名交じりの書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	漢字仮名交じりの書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、漢字仮名交じりの書の基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。

□単元名：漢字仮名交じりの書の表現

□単元の目標

- ① 書の伝統と文化に関心をもって、参考とする古典の表現や鑑賞の創造的活動に主体的に取り組む。
(書への関心・意欲・態度)
- ② 参考とする古典のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫する。
(書表現の構想と工夫)
- ③ 創造的な書表現をするために、参考とする古典の表現の基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表す。
(創造的な書表現の技能)
- ④ 日常生活の書の効果や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わう。
(鑑賞の能力)

□単元ごとの評価規準

書への 関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な 書表現の技能	鑑賞の能力
漢字仮名交じりの書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	参考とする古典のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な漢字仮名交じりの書の表現をするために、参考とする古典の表現の基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効果や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。

□指導と評価の計画（○時間）

時	各時間の目標	主な学習活動の流れ と指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況 C の生徒 への対応
1 時 間 目	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の 主な項目を 記載 		<ul style="list-style-type: none"> 評価の具体的な方法及び指導の ポイントを記載 ※評価の観点は次のように略記 【書への関心・意欲・態度】＝【関】 【書表現の構想と工夫】＝【構】 【創造的な書表現の技能】＝【技】 【鑑賞の能力】＝【鑑】 	<ul style="list-style-type: none"> 状況 C の生 徒への具 体的な対 応方 法を記載
2 時 間 目			<ul style="list-style-type: none"> 評価の具体的な方法及び指導の ポイントを記載 	

II 指導と評価の年間計画(書道I) <例>

科目名：書道I

岐阜県立 ○○ 高等学校

目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。				書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
【学習指導要領】								
目標達成に向けての具体的な取組	・漢字仮名交じりの書の学習を通して意欲的、主体的に表現し、その喜びを味わい、漢字・仮名の学習を通して古典の美と価値を感じとる。鑑賞活動を通して書を愛好し、日常生活における書への関心を高め、意欲的にその美を味わう。(書への関心・意欲・態度)							
【評価規準を念頭に置いた指導上の留意点】	・感性を働かせて書のよさや美しさを感じ取り、創造的な表現を工夫することができるよう、資料・作品の準備や展覧会の案内などをする。(書表現の構想と工夫)							
	・自己を主体的に表現するために、必要な技能を身に付けることができるよう、自分の考えを表現できるような場面を多く設定する。(創造的な書表現の技能)							
	・書の効用や表現、書の文化や伝統を幅広く理解し、そのよさや美しさを深く味わう。(鑑賞の能力)							
月	単元名	学習項目	時間	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法			
4	書的美・書の表現	書分野 鑑賞と臨書 姿勢・執筆 用具・用材 毛筆の特性 用筆の基本	2	・国語科書写と芸術科書道との関連と違いについて理解し、学習への取組の姿勢を確立する。 ・書の表現が用具・用材と深く関連していることや、性能について理解し、適切に使用することができる。 ・書的美を構成する様々な要素について考え、学習の基礎を確立する。	・アンケートの実施 ・行動観察 ・プリント確認	○	○	
5	漢字仮名交じりの書1	漢字仮名交じりの書的美 姿勢・執筆法練習 書写から書道へいろいろな線による表現 用具・用材による表現 紙面構成のバリエーション 鑑賞・作品制作 漢字仮名交じりに書による創作	13	・漢字と仮名の学習の調和をはかり、現代にふさわしい書作品をつくることことができる。 ・自ら課題を見つけ、様々な表現技法を使ってセンスあふれる作品に挑戦することができる。 ・運筆のリズムや筆圧の変化を考え、自分の意図にあった表現ができる。 ・筆、墨色、墨量、紙の違いによる変化を感じ取ることができる。 ・縦書き、横書き等による字形・文字の大きさや全体構成を工夫することができる。	・イメージの発表 ・作品カードに記入し提出 ・行動観察 ・作品の提出 ・他者評価カードの記入 ・鑑賞カードの提出	○	○	○
6	漢字の書1	《楷書の学習》 楷書的美 鑑賞 作品制作	10	・古典の作品を通して書写の心情、歴史的背景に興味をもつことができる。 ・各々の古典の書風の違いを分析することができる。 ・用筆法の違いにより、様々な線を表現することができる。 ・楷書の基本的な用筆法を習得することができる。 ・楷書の基本点画を習得することができる。 ・姿勢・執筆法を習得することができる。 ・古典の臨書と鑑賞を通して、多様な表現方法を理解し、学習への興味と意欲をもつことができる。 ・古典の良さや美しさを味わうことができる。	・イメージの発表 ・作品カードに記入し提出 ・行動観察 ・作品の提出 ・他者評価カードの記入 ・鑑賞カードの提出	○	○	○
7	漢字の書2	《行書の学習》 行書的美 行書の特徴 鑑賞 作品制作 生活の中の書	10	・楷書と行書の違いについて考え、理解することができる。 ・用筆法の違いにより、様々な線を表現することができる。 ・古典には筆者の心の動きや個性が表れていることを理解することができる。 ・表現の技法を習得することができる。 ・各古典を比較鑑賞し、古典のよさ、美しさを感じ取ることができる。	・イメージの発表 ・作品カードに記入し提出 ・行動観察 ・作品の提出 ・他者評価カードの記入 ・鑑賞カードの提出	○	○	○
9	仮名の書	仮名の成立 仮名の美 仮名の基本的な筆使い 仮名の単体・連綿、変体仮名 作品の鑑賞 生活の中の書 作品制作 書作品と料紙	15	・磨墨の良さを理解することができる。 ・仮名独特の美しさ、用筆法、運筆のリズムを取得することができる。 ・仮名の成立過程及び字源について理解を深めることができる。 ・連綿、散らし書きの学習を通して、仮名の美を追究することができる。 ・散らし書きに思い切った表現の工夫をすることができる。 ・変体仮名を自由に使いこなすことができる。	・イメージの発表 ・作品カードに記入し提出 ・行動観察 ・作品の提出 ・他者評価カードの記入 ・鑑賞カードの提出	○	○	○
10	篆刻	自分の印を刻ってみよう 《篆書》 《篆刻》	6	・自作の印(姓名印)を持つ喜びを味わい、篆刻に対する興味をもつことができる。 ・文字造形の面白さを味わうことができる。 ・手順、技法を習得することができる。	・行動観察 ・作品の提出 ・他者評価カードの記入	○	○	○
11				・用具、用材の扱い方を身に付けることができる。 ・個性あふれるオリジナルな表現を工夫することができる。	・鑑賞カードの提出			○
12	漢字仮名交じりの書2	生活の中の書、 実用書の学習	14	・創作の手順と要領をつかむことができる。 ・たくましく、躍動感あふれる運筆ができる。 ・創作することの楽しさ、充実感を味わうことができる。 ・個性的でオリジナルな表現を工夫することができる。 ・書の日常性に目を向け、生活の中に積極的に取り入れることができる。 ・一年間の学習の成果を書く。(篆刻作品を押印)	・作品カードに記入し提出 ・行動観察 ・作品の提出 ・他者評価カードの記入 ・鑑賞カードの提出	○	○	○
13						○	○	○

Ⅲ 評価規準と単元計画（書道Ⅰ）〈例〉

1 「書道Ⅰ」の目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

2 「書道Ⅰ」の評価の観点の趣旨

書への 関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現 の技能	鑑賞の能力
書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効果や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。

3 「A 表現（2）漢字の書」の評価規準

書への 関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現 の技能
漢字の書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	漢字の書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、漢字の書の基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。

4 単元指導計画

◇単元名：漢字の書の表現 — 楷書の学習（創作） —

◇単元の目標

- ① 書の伝統と文化に関心をもって、漢字の書の表現や鑑賞の創造的活動に主体的に取り組む。
(書への関心・意欲・態度)
- ② 漢字の書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫する。
(書表現の構想と工夫)
- ③ 創造的な書表現をするために、漢字の書の基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表す。
(創造的な書表現の技能)
- ④ 日常生活の書の効果や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わう。
(鑑賞の能力)

◇単元の評価規準

書への 関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現 の技能	鑑賞の能力
漢字の書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	漢字の書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、漢字の書の基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効果や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。

◇指導と評価の計画

時	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応
1 時間 目	<p>○鑑賞により書のもつよさや美しさを感じとることができる。</p> <p>○字形、文字の大きさと全体構成について理解する。</p> <p>○自分の表現意図に即して表現の工夫をする。</p>	<p>・井上有一と上條信山の「花」を鑑賞して気付いたことを発表する。</p> <p>*留意点</p> <p>・既に学んだ内容を踏まえた発表となるよう、指示する。</p> <p>・生徒の発言を受け、既に学んだ内容と関連付けながらまとめさせる。</p> <p>・「愛」をテーマにして創作する文字を決める。</p> <p>*留意点</p> <p>・生徒のイメージがふくらむよう、身近なことを例にとって声を掛ける。</p> <p>・運筆法・用筆法について、具体的な古典名を挙げることにより、生徒が既に学んだ内容と結び付けながら考えることができるようにする。</p> <p>・生徒が、全体構成や字形のデフォルメについてイメージしやすくするため、紙面の使い方や概形についての例を幾つか示す。</p>	<p>書之美に対する第一印象を大切に、積極的に意見の発表ができる。 【鑑】</p> <p>↓</p> <p>意見発表</p> <p>他者の意見を踏まえ自らの鑑賞を深めることができる。 【鑑】</p> <p>↓</p> <p>机間指導による観察</p> <p>文字の配置や大きさ、字形、それに伴う余白の取り方、落款の位置や大きさなどについて考え、意図に基づく創造的な表現をしている。 【構】</p> <p>↓</p> <p>プリント・作品の提出</p>	<p>・拡大したもので特徴的な部分を指し示し、考えさせる。</p> <p>・生徒作品を一部黒板に貼り、参考にして考えさせる。</p>
2 時間 目	<p>○用具・用材と表現の関係について理解する。</p> <p>○用具・用材を考えて表現の工夫をする。</p> <p>○展示方法の工夫をする。</p>	<p>・筆の種類、墨の濃淡、潤濁、紙質から生まれる表現の違いについて考える。</p> <p>*留意点</p> <p>・前時に提出された作品の一部を貼り出し、見比べながら生徒一人一人が考えられるようにする。</p> <p>・柔毫筆など、生徒の持っていない用具について準備しておく。</p> <p>・作品の展示方法を工夫し、仕上げる。</p> <p>*留意点</p> <p>・前時の終わりに必要な材料などについては連絡する。作品の展示例などを幾つか紹介することで、生徒の工夫を引き出す。</p>	<p>筆の種類、墨の濃淡、潤濁、紙質などを考えて、線質、字形、全体構成などに生かせるよう積極的に工夫している。 【構】</p> <p>↓</p> <p>プリント・作品の提出</p>	<p>・大きさに表現した作品を用意しておき、比較することで理解を助ける。</p>

Ⅳ 学習指導案（書道Ⅰ）〈例〉

本時の位置	1 1 時間目（全 1 2 時間）		
本時の学習目標	<p>ア 鑑賞により、書のもつよさや美しさを感じるとともに、用筆法・運筆法との関係について理解を深める。（鑑賞の能力）</p> <p>イ 自分のイメージを表現するための構成の工夫と、用筆法、運筆法について考えて試し書きする。（書表現の構想と工夫）</p>		
事前の準備	・プリントを印刷しておく。		
	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 5分	□本時の学習内容と目標	<p>①必要な用具を準備する。 ・下敷き・文鎮・硯・水滴</p> <p>②墨をする。</p>	<p>・始業前に用具を準備するよう促す。</p> <p>・プリントの配布</p>
展開 40分	<p>□漢字一字作品の鑑賞</p> <p>□「愛」をテーマに創作する文字の決定</p>	<p>③井上有一と上條信山の「花」を鑑賞して発表する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>[予想される発表]</p> <p>井上有一 ・迫力がある ・力強い ・雑に見える ・藏鋒 ・速度ゆっくり ・筆圧大きい 等</p> <p>上條信山 ・勢いがある ・紙からはみ出している ・速度速い ・太細の変化がある 等</p> </div> <p>④「愛」とは○○なもの、を考える</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>[予想される発表]</p> <p>・温かい ・優しい ・強い ・与える</p> </div> <p>⑤当てはめた言葉を基に創作する一文字を決める。</p> <p>⑥文字の大きさ、線の太さ、デフォルメ、用筆法・運筆法などについて考える。</p> <p>⑦半紙1/4のサイズに試し書きする。</p>	<p>・配布プリントにより二つの作品を比較しながら鑑賞させる。</p> <p>・書き手によって、表現が大きく異なるところに注目させる。</p> <p>・前時までの臨書学習を簡単に振り返り、創作において意識することをはっきりさせることで、直感的鑑賞から分析的鑑賞へとつなげる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>目標 アに対する評価規準と評価方法</p> <p>[規準] 書の美に対する第一印象を大切にし、積極的に意見を発表できる。 【鑑】</p> <p>[方法] 机間指導による観察・指名による発表 [状況Cの生徒への手立て]</p> <p>・拡大したもので特徴的な部分を指し示し、考えさせる。</p> </div> <p>・「愛」という言葉のイメージをもとに○○に当てはまる言葉を考えさせる。</p> <p>・他者の意見についてもメモを取るように指示する。</p> <p>・自分のイメージを表現するための工夫について、できるだけ具体的にプリントに記入させる。</p> <p>・文字の配置と概形を決め、デフォルメさせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>目標 イに対する評価規準と評価方法</p> <p>[規準] 字形・余白などを考え、意図に基づく創造的な表現をしている。 【構】</p> <p>[方法] 机間指導による観察 [状況Cの生徒への手立て]</p> <p>・生徒作品を一部黒板に貼り、参考にして考えさせる。</p> </div>
まとめ 5分	<p>□本時のまとめ</p> <p>□次時の確認</p>	⑧プリントと作品を一緒に提出する。	<p><評価方法></p> <p>・提出されたプリントと作品による。</p>